

## 遺跡発表 3. 成田市

おおたけはやしはた

# 大竹林畑遺跡

—大規模古墳群の築造を支えた村—

調査係長 齊 藤 毅

### 遺跡の位置

大竹林畑遺跡は成田市の西端、成田市大竹字林畑1324-2他に所在している。周辺は、近年「坂田ケ池総合公園」として整備が進み、池を挟んで北側に隣接する「房総風土記の丘」と併せ、豊かな自然環境、歴史環境を備えた市民の憩いの場となっている。

遺跡は印旛沼の北東岸、沼に直接面する標高28～30mの台地上に位置している。台地は北側で古くは鬼怒川水系長沼の水源のひとつであった坂田ケ池が、東側で小さな谷津が入り込み、下総台地特有の樹枝状の複雑な地形となっている。

### 周辺の遺跡

印旛沼の周辺では数多くの遺跡の所在が知られている。本遺跡が所在する印旛沼東岸では、とくに古墳時代から奈良・平安時代の重要な遺跡がみられる。なかでも「印波国造」の墓域とされる竜角寺古墳群（2）、上福田古墳群（3）、大竹古墳群（4）などの近在古墳群、学術調査を実施し古墳前期の玉作集落を検出した大竹玉作遺跡（5）などは、本遺跡と密接な関わりのある遺跡といえる。

### 調査の概要

発掘調査は平成15年・16年度に公園外周部分の道路改良工事に伴い実施された。対象面積は平成15年度1,320㎡、16年度1,200㎡である。

本遺跡は、これまでも坂田ケ池総合公園建設に関連し発掘調査が実施されている。平成3年度には、中央及び東側の24,000㎡を対象に確認調査が行われ、古墳時代前期住居2軒、後期住居124軒、土坑85基などが検出された。平成5年度には、西側13,000㎡を対象に確認調査が行われ、弥生時代住居2軒、古墳時代前期住居1軒、後期住居56軒、奈良・平安時代住居46軒、掘立柱建物4棟、土坑40基などが検出された。

これらの調査では、古墳時代後期住居180軒、奈良・平安時代住居46軒をはじめ、計231軒の住居跡が確認され、古墳時代後期を主体とする奈良・平安時代に至る大集落の存在が確実となった。

確認調査の結果に基づき、平成6年・8年度には、4地点（A～D地区）計3,620㎡の本調査が実施された。この調査では、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡49軒などが検出された。また、C地区では滑石製模造品工房跡が検出され、谷を挟んで南東側に位置する大竹玉作遺跡との関連なども注目された。

（平成15年度調査・検出された遺構と遺物）

○古墳時代前期住居1軒、後期住居17軒、奈良・平安時代住居4軒、土坑24基、道路状遺構1条、溝状遺構2条

○土師器、須恵器、鉄製品、土玉、中・近世陶磁器、銭貨

（平成16年度調査・検出された遺構と遺物）

○古墳時代中期住居1軒、奈良・平安時代住居4軒、土坑29基、溝状遺構12条

○土師器、須恵器、鉄製品、土玉、管状土錘、砥石、中・近世陶磁器

平成15年・16年度の調査では古墳時代を主体とする計27軒の住居跡などが検出された。調査区は幅6m、さらにその半分は既存道路による削平を受けており、完掘できた住居は1軒もなかった。しかし、平成15年度調査区の東側を中心に多数重複する住居が検出され、大規模集落の一端がうかがえた。

検出された住居跡は6世紀前半～7世紀前半のものが主体となるが、遺物量が少なく時期の不明確な住居もある。集落は台地の東から西に向かい奈良・平安時代の住居が増加する傾向があり、今回の調査でも同様の分布状況が確認できた。谷津により3つに分割される台地毎の集落の構成には時期差がみられ

るようである。

遺物では多量の土玉が検出された。これまでの調査で525点、今回は約200点を数える。土玉は古墳時代後期を中心に、とくに北総地域において、特徴的な遺物として住居から検出されることが多い。用途については、土錘、装飾品などの指摘がある。検出された土玉を観察すると、法量、形態、表面の調整方法などにバラエティーがみられる。このうち、とくに小型品では丁寧なつくりのものが多い。径10mm程度の精微なつくりの土玉は、まさに「玉」を彷彿とさせるものである。

### まとめにかえて

これまでの調査では、古墳時代から奈良・平安時代に至る大規模集落の一端を知ることができた。現状では集落全体の構成やその変遷など不明確な部分も多いが、調査区の南に広がる畑地でも多量の土器の散布がみられ、台地の広範囲に集落が展開することは容易に推察できる。優に600軒を超える住居の

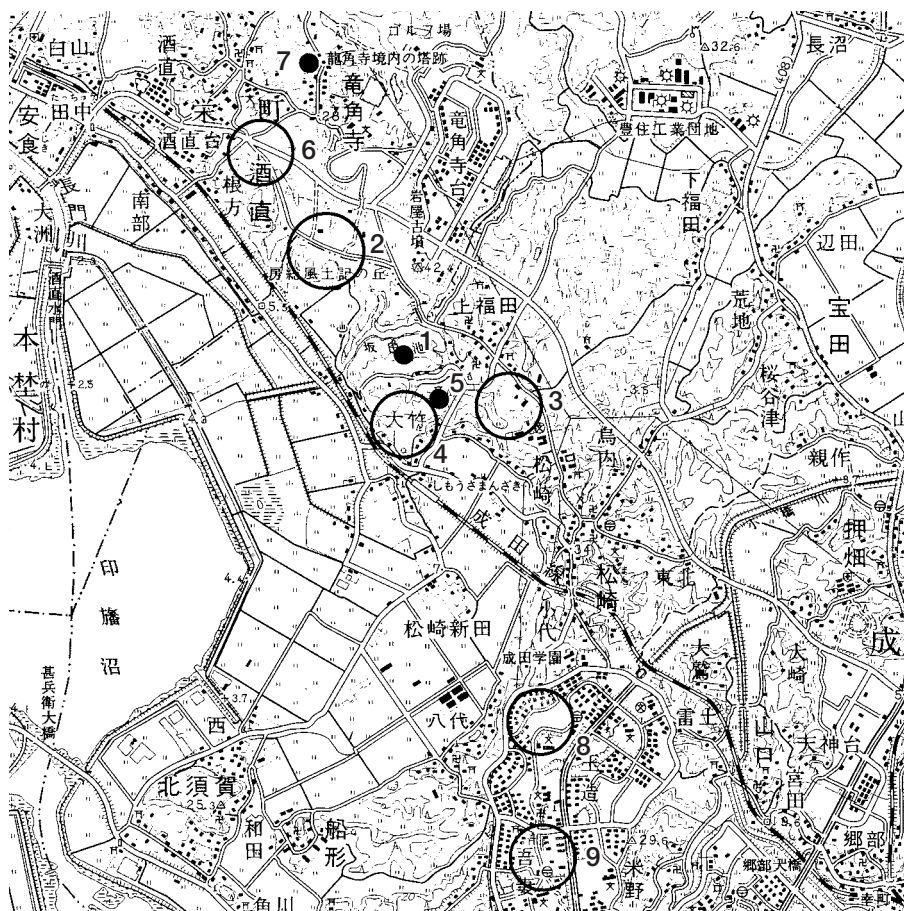
存在が想定できるだろう。

また、本遺跡は下総国<sup>しもとうのくに</sup>殖生郡玉作郷の中心集落として示唆されている。これについては、大竹玉作遺跡の調査時、この周辺一帯を「玉作郷」とする見解が示されている。平成6年度の調査では滑石製模造品工房跡を検出、さらに多量に出土した土玉を玉作の延長と捉え、「玉作郷」の中心集落と推定している。

周辺地域は開発に伴う調査例が近年増加し、様々な遺跡の様相について明らかになりつつある。しかし、竜角寺古墳群南側での調査事例は少ない。

古墳時代以降、この周辺は水運を介した交通路の要所であり、政治経済さらに軍事上の重要地域であった。周囲を古墳群に囲まれながら、大居住域として存続し、古墳時代の終焉の後も中心集落として機能した大竹林畑遺跡の調査成果は、周辺の主要な遺跡群を含めた地域の歴史復元に欠かせない貴重な資料といえるだろう。

(参考文献) 『大竹林畑遺跡』 1997年 印旛郡市文化財センター



1. 大竹林畑遺跡
2. 竜角寺古墳群
3. 上福田古墳群
4. 大竹古墳群
5. 大竹玉作遺跡
6. 殖生郡衙関連遺跡
7. 龍角寺
8. 八代台古墳群  
(公津原古墳群)
9. 天王船塚古墳群  
(公津原古墳群)

第1図 周辺の主な遺跡 (S=1/50,000)



平成16年度  
本調査地区

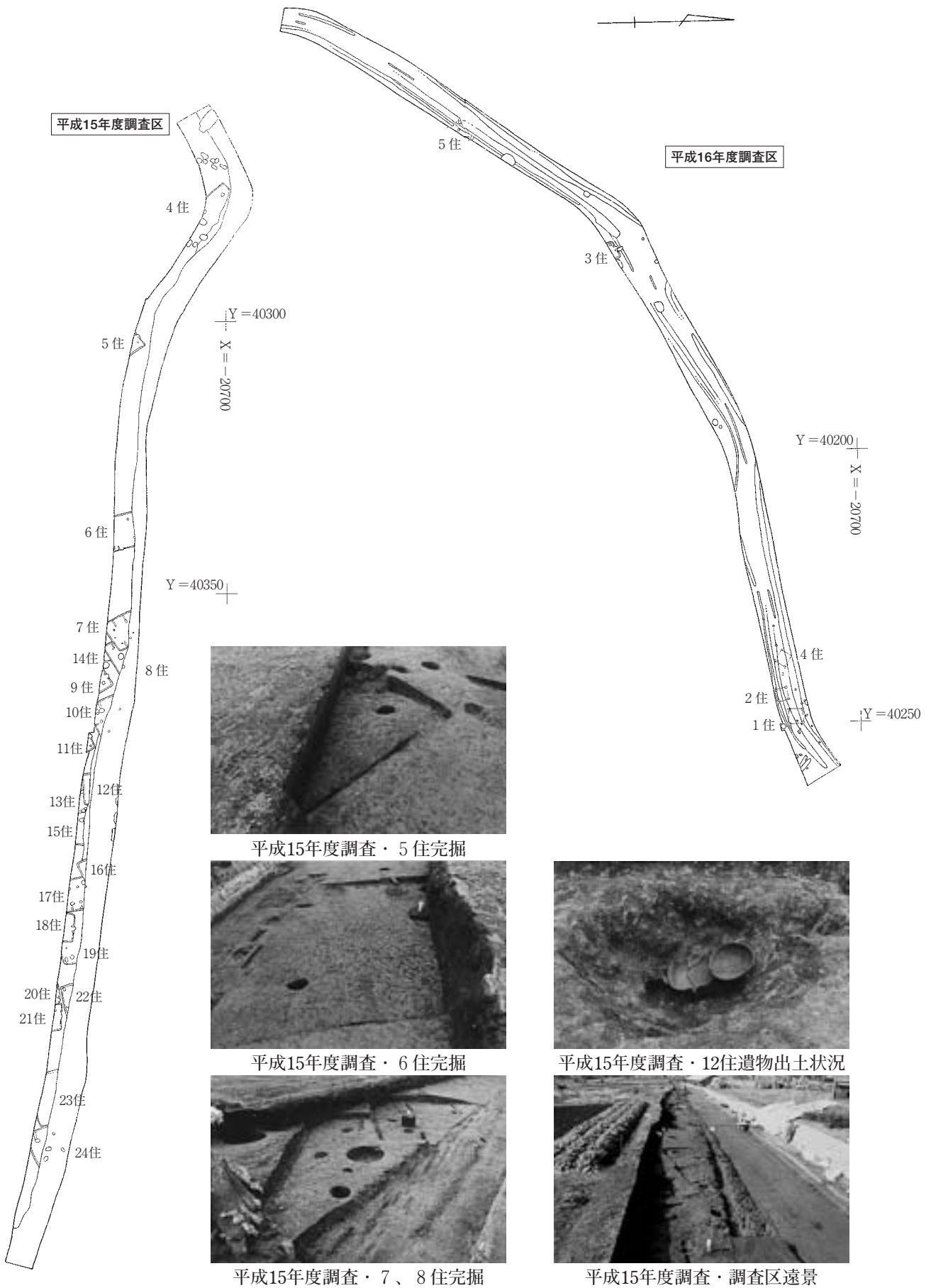
平成5年度  
確認調査地区

坂田ヶ池

平成15年度  
本調査地区

平成3年度  
確認調査地区

第2図 周辺地形図及び遺構検出状況図 (S=1/2,000)



第3図 遺構配置図 (S=1/1,000)